巻頭言

コロナ禍において思うこと

徳島県剣道連盟 会長 藤川和秋

令和五年一月七日の新聞記事に「コロナ感染累計三千万人」との見出しで、二〇二〇年一月に日本国内で感染者が初めて確認され、約三年で人口の四分の一近くが感染した計算になるとの記事が掲載されました。背景にあるのは、感染力の強いオミクロン株の登場です。まさに新型コロナウイルスの脅威です。徳島県内も全国に比較して感染数は低いものの、同様の傾向を示しています。感染当初、鹿児島国体、三重国体と二年続けて開催が中止となりました。また全日本剣道連盟主催の全日本剣道選手権大会など全国レベルの大会が中止になるなど剣道界にも大きな影響が出ました。しかし、人間社会の対応能力は素晴らしいものがあります。剣道界は医学的見地に立ちコロナに毅然と立ち向かい、今では面マスク、シールドを着用し、コロナ対策を実践しながら剣道の審査そして各種大会等を開催しています。

徳島県剣道連盟も当初、コロナの脅威に怯え審査会、各種大会も開催できませんでしたが、現在は、全日本剣道連盟や徳島県そして徳島県スポーツ協会などのご指導を受け、感染対策を徹底しながら審査会、各種大会等が開催できるまでの状態となっています。ここまで来るには、運営する剣道連盟の役員、スタッフが開催に熱い思いを持ち努力してきたほか、各大会の選手、学校関係者そして選手の保護者の皆さまのご理解があってこその結果であり、あらためて関係者の皆さまには深く感謝を申し上げます。

剣道からはなれた私生活の場においても数々の試練があったと思います。コロナ感染により大切な人、最愛の人を失った人もいます。逆にコロナの脅威に対し、仲間が支え合って絆が深まった人達もいます。今後、新型コロナウイルス感染が終息する見込みもありません。

コロナ禍での様々な出来事や経験から、人が生きて行くには、お互いが理解し支え合って生きて行くのが最も大切であると痛感させられました。

連盟の皆さま、今後もコロナ感染の厳しい状況が続くと思いますが【交剣知愛】の精神を大切にし、剣道だけでなく私生活の場においても修錬をして行きましょう。